
白紙のノート.

神城 流架.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白紙のノート.

【Nコード】

N4028L

【作者名】

神城 流架.

【あらすじ】

君のことが好き.

だけど他の人にも迷惑をかけると
知ってしまったんだ.

空ーs o r a .. プロローグ（前書き）

この「白紙のノート」は、幾つかのバージョンによって物語・展開が違います・・・、いいえ、ちがくなるように頑張ります。

一つ目の物語「空ーs o r a」の主人公の周りの人の恋愛などが二つ目、三つ目となる予定です。

では、駄文で意味の分からない箇所がたくさんあるかと思いますが、

読んでくだされば光栄です。

空—s o r a .. プロローグ

僕、極普通の中学2年生。

普通の女の子だから、もちろん恋だってするんだ。

ただ「しない」って決めてたのは

恥ずかしかっただけ・・・

大好きな君に憧れて

君とよくいる子と話してみる

ねえ、どうしてかな？

同じ女の子なのに

強くてとても格好よく見えた

僕は君に近づく為に

人生を変えて見せるよ

今のままの僕は君には相応しくないんだ

あのね、

君にはもっとあの子みたいな子じゃなくちゃ

僕なんかじゃ全然

並んで歩くのさえ恥ずかしいよ・・・

空—s o r a— ..？

中学校生活1年と2ヶ月が経とうとしてる。

小学校の時と比べても大して変わらない、もの静かなおとなしい子イメージのついた性格。

カラオケに行くというだけで、「ええ！？カラオケ行くんだ・・・以外」と言われちゃうし、意味の分からない噂ばかり流れるし・・・調理実習でお菓子を作れば、いろんな人が誰に渡すのと聞いている。

渡す人なんていないよ、というて決まって落ち込む男子ばかり。

友達は皆言う。

「鈍感」だって・・・。

仕方がない事なのだと、如何してか必死に説明する僕。

生まれてから一度も、恋愛感情で人を好きになった事がない僕は思う。「恋なんて空想の中だけ」だって・・・言うとうるさくなりそうだから、誰にも言わないだけ。

「歌那一っ何してんのー、もう帰ろうよ！ 折角の早帰りなんだし★」

友達の優香が指した時計の時刻は2時半になろうとしている。本当に早帰りだ・・・理由は忘れたけれど。

「そうだね・・・、あつ」

「ん？何々、如何したの・・・って・・・」

僕が見たのは、髪を染めてピアスをつけた学校でも問題になって

いる同級生。

「無視して行こう？あの人・・・鬼城 悠夜、なんかチームとか作ってるらしいし・・・。」

「知ってるのっ！？教えて、知ってること全部！！」

僕はなんとなく、直感的というかなんというか・・・彼のことを知りたくて知りたくて、仕方がなかった。驚く優香は気にも留めず「家に来て」という約束だけを交わしスキップ状態で家へと帰る。ただいま、なんて言っても返事は当然返ってこず・・・ああ、僕の家族はみんな「仕事」で忙しくて滅多に家には帰ってこない。気楽でいいんだけどね・・・。

ピンポン・・・

「えっと・・・遅くなってごめん、友達連れてきたあ・・・」

「お邪魔します」

入ってきたのは優香と・・・その友達。

「優香、そのこは誰？」

「ああ、えと・・・」

何故か戸惑う。

「早瀬 神那、よろしくね、歌那♪名前の漢字、読みが似てるよねー」

笑いながら言う神那ちゃんは、少し強そうで華があって・・・。

「ところで・・・どうして連れて来たのー？こんな可愛い子をΣ」

「そのこ、君が興味を示した人といつも側にいるんですよー」
わざと敬語で言ってきた優香。・・・まじですか、としかハツキ

りいえないのは気のせいだろうか・・・？

「そうなんだ、なんだっけ・・・悠のことが好きなんだよね？」

「いえっそんな・・・ことは・・・」

何故かないと言い切れなかった。そんなことに何故か自分が驚く。

「そうだなー、悠と居たいんだよね？あたしと一緒に居よっか、友だち。友達っ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4028/>

白紙のノート.

2010年10月13日15時52分発行